

## 4. 5歳児の子どもの保護者の意識調査

小山 文加

**要旨:** ヤマハ音楽研究所では、子どもを取り巻く環境の急速な変化に伴う、習い事に関する保護者の意識や親子の音楽の楽しみ方の経年変化を調査することを目的とする研究を進めている。本アンケート調査は、4歳児ならびに5歳児の子どもの保護者を対象に、子どもの「生活時間・生活習慣」、「習い事」および「音楽活動」の3側面から、子どもの生活の実態や保護者の考え方を把握することを目的に実施した。また同様の調査をアメリカ、フランス、インド、中国および韓国でもおこなった。その結果、習い事によって通わせ始めたいと考える時期に違いがあることや、子どもの生活習慣や音楽活動に関して国際的にさまざまな共通点や相違点があることが確認された。

**キーワード:** 保護者の意識、習い事の開始時期、幼児の音楽活動

### 1. はじめに

ヤマハ音楽研究所では、研究の一環として子どもを取り巻く環境の急速な変化に伴う、習い事に関する保護者の意識や親子の音楽の楽しみ方の経年変化を調査することを目的とする研究を進めている。本アンケート調査は、ヤマハ音楽教育システムでは幼児科を開始する時期に当たる、4歳児ならびに5歳児の子どもの保護者を対象に、「生活時間・生活習慣」、「習い事」および「音楽活動」の3側面から、子どもの生活の実態や保護者の考え方を把握することを目的に実施したものである。また、国際比較に基づき、日本の保護者の意識に特徴的な傾向を明らかにするため、同様の調査をアメリカ、フランス、インド、中国および韓国においても実施した。

子どもの習い事については、学校外教育活動のひとつとして、その実態や費用に関する調査報告（ベネッセ教育研究開発センター）や、習い事の経験がその後いかなる影

響を与えたかについての回想調査研究（成田1998）、あるいはその後の本人と保護者の習い事への評価の差異を指摘する研究（萩原・山内2001）等、さまざまな調査、分析がなされている。本アンケート調査においては、保護者が各種の習い事の開始時期をどのように考えているのかに焦点を当てることで、音楽系の習い事への意識を特徴付けることを試みたい。

### 2. 調査方法

本アンケート調査はヤマハ音楽研究所が企画し、調査実務はNTTレゾナント株式会社へ委託・実施した。

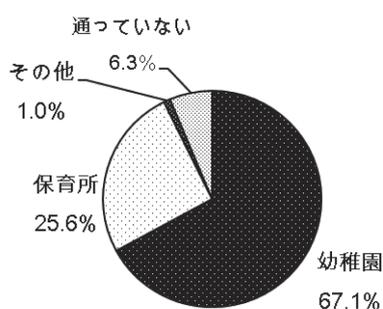
調査対象は4歳児ならびに5歳児の子どもの保護者とした。サンプル数は1042名であった。そのうち426名が男性（父親）、616名が女性（母親）で、525名が主婦（主夫）を専業としていた。回答者の子どもは、523名が男の子、519名が女の子であった（表1）。

子どもの92.7%は、幼稚園あるいは保育所へ通っていた（グラフ1）。

なお、本研究は経年比較をおこなっていくことを予定しているが、本アンケート調査は第1回目の調査に当たる。そこで本稿では、日本の保護者の意識を相対的に特徴付ける試みとして、参考として国際比較をおこなった結果も適宜述べることにする。日本以外の国では、アメリカ、フランス、インド、中国および韓国の4歳児ならびに5歳児の子どもの保護者を調査対象とし、サンプル数は各国300名ずつとした（表2）。

表1 サンプル数（日本）

	男	女	計
保護者	426	616	1042
（うち専業主夫／専業主婦）	2	523	525
子ども	523	519	1042



グラフ1 子どもの就園状況

表2 サンプル数（海外）

国名		男	女	計
アメリカ	保護者	74	226	300
	子ども	150	150	300
フランス	保護者	108	192	300
	子ども	150	150	300
インド	保護者	188	112	300
	子ども	150	150	300
中国	保護者	131	169	300
	子ども	150	150	300
韓国	保護者	223	77	300
	子ども	150	150	300

調査方式は goo リサーチを利用したインターネット調査であった。日本における調査期間は2011年2月3日から10日までとし、それ以外の国では同年2月28日から3月5日までを調査期間とした。

### 3. 調査内容

本アンケート調査は、経年変化をたどることを前提に、子どもの「生活時間・生活習慣」ならびにヤマハ音楽教室と関わりの深い「習い事」と「音楽活動」という3つの側面から、保護者の意識を把握、分析することとした。主な設問項目は表3に示した。

表3 主な調査項目

生活時間・生活習慣	子どもの帰宅時間
	子どもの就寝時間
	子どもの生活習慣
習い事	(0歳～4, 5歳まで) ある習い事に通わせ始めた年齢
	(4, 5歳以降) ある習い事に通わせ始めたいと考える年齢
	習い事に掛かる費用
音楽活動	家庭での音楽活動
	家庭で音楽を聴く際に使用する機器
	子どもがよく聴く音楽ジャンル
	家庭で子どもが親しんでいる楽器
	家庭、幼稚園、保育所等以外でのコンサート等での鑑賞、音楽イベント等への参加の機会
	保護者の音楽活動

### 4. 調査結果

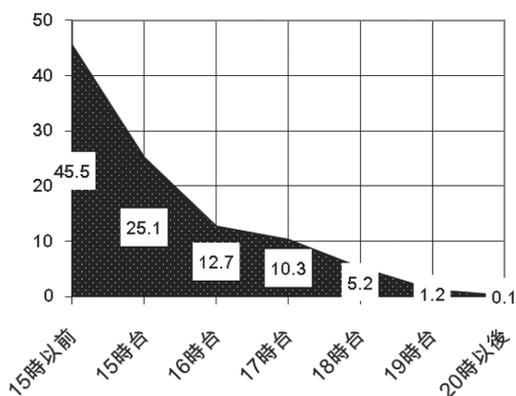
#### 4-1. 生活時間・生活習慣

本項目においては、子どもの生活リズムの傾向をとらえるため、子どもの帰宅時間や就寝時間について調査した。わが国では『幼稚園教育要領』において幼稚園における教育時

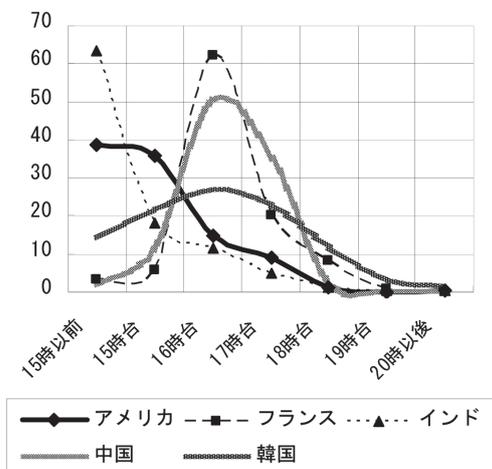
間が定められていることがあり<sup>1)</sup>、子どもの帰宅時間で最も回答が多かったのは「15時以前」(45.5%)であった(グラフ2)。

全体として、遅い時間になるのにしたがって回答は減少する傾向にあり、これと類似する傾向がアメリカおよびインドの子どもの帰宅時間にもみられた。一方、フランス、中国および韓国では、子どもの帰宅時間は「16時台」という回答が最も多かった(グラフ3)。なお、母親の就業状況別にみると、日本では母親が主婦を専業としていない場合、子どもの帰宅時間は「18時台」(25.6%)という回答が最も多く、「15時以前」に帰宅している子どもは7.8%にとどまった。

子どもの就寝時間については、「21時台」



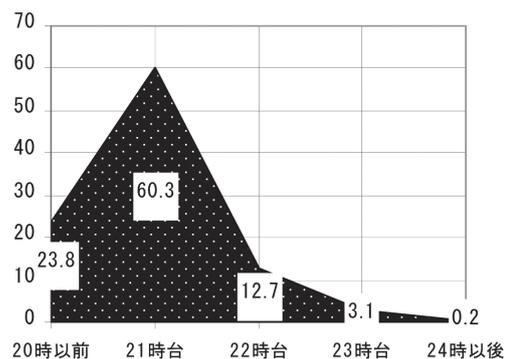
グラフ2 子どもの帰宅時間



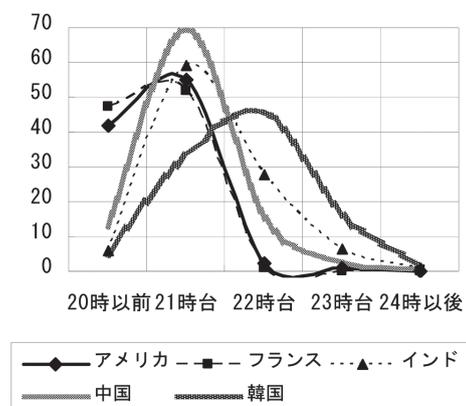
グラフ3 子どもの帰宅時間 (海外)

(60.3%)という回答が最も多く(グラフ4)、韓国を除く4ヶ国でも同様の結果であった。日本では「22時台」の回答が12.7%、「23時台」の回答が3.1%あり、インドや中国でも「22時台」までは10%以上の回答があったが、アメリカとフランスでは、21時台以前に子どもが就寝するという回答が95%以上を占めた。

特に子どもの就寝時間が遅い傾向を示したのは韓国で、「22時台」(45.6%)という回答が最も多く、「23時台」という回答も16.0%あった。また、韓国および中国では女の子の方に就寝時間が遅いという回答が多かった<sup>2)</sup>。日本の子どもの帰宅時間や就寝時間について、性別による違いはほとんどなかった。



グラフ4 子どもの就寝時間



グラフ5 子どもの就寝時間 (海外)

子どもの生活習慣に関しては、表4の各項目について該当する習慣がみられるかどうかを調査した。日本では「食べるのが遅い（速い）」(44.5%)、「テレビを見ながら食べる」(40.5%)、「食べ残しをする」(39.3%)といった食に関する項目に該当するという回答が多かった。続いて「片付けをしない」(34.7%)や「テレビやビデオを見る時間が長い」(29.4%)とする回答が多かったが、「テレビやビデオを見る時間が長い」では男の子(33.3%)と女の子(25.4%)で違いがみられた。

また、これらの24項目の中で、特に早期に改善したいと考える項目について調査した結果においても、「食べるのが遅い（速い）」(23.1%)、「片付けをしない」(17.9%)、「食べ残しをする」(16.3%)が上位を占めた。子どもの生活習慣に関する質問結果は、いずれの国においても類似する傾向を示し、食に関する項目に当てはまるとする回答が多かった(表5)。

表4 子どもの生活習慣に関する調査項目

1	食べ残しをする	13	片付けをしない
2	朝食を食べない	14	手を洗わない
3	食べるのが遅い/速い	15	挨拶ができない
4	食べ散らかしが多い	16	返事をしない
5	テレビを見ながら食べる	17	言葉遣いが悪い
6	音を立てて食べる	18	物を投げる
7	お菓子ばかり食べる	19	暴力を振るう (たたく、引っかく、かむ等)
8	寝相が悪い	20	大声を上げる
9	寝起きが悪い	21	すぐ泣く
10	寝つきが悪い	22	爪をかむ
11	ゲームで遊ぶ時間が長い	23	指をしゃぶる
12	テレビやビデオを見る時間が長い	24	舌打ち

なお、これら24項目の「いずれにも当てはまらない」と答えた保護者の割合は、フランス(24.7%)、アメリカ(21.0%)、インド(20.3%)の順に高く、日本と中国(各7.7%)および韓国(8.3%)と大きな差があった。

表5 多くの子どもの該当する生活習慣

国名	1	2	3
日本	食べるのが遅い/速い	テレビを見ながら食べる	食べ残しをする
	44.5%	40.5%	39.3%
アメリカ	食べ残しをする	テレビを見ながら食べる	お菓子ばかり食べる
	43.3%	36.0%	30.0%
フランス	片付けをしない	食べ残しをする	食べるのが遅い/速い
	39.3%	33.7%	25.7%
インド	食べ残しをする	テレビを見ながら食べる	テレビやビデオを見る時間が長い
	45.7%	44.0%	34.0%
中国	テレビを見ながら食べる	食べるのが遅い/速い	食べ残しをする
	52.0%	47.7%	34.7%
韓国	テレビを見ながら食べる	食べるのが遅い/速い	食べ残しをする
	46.0%	42.0%	37.7%

#### 4-2. 習い事

本項目においては、表6の各習い事に関して、4, 5歳までにすでに通わせた経験のあるものについて「習い事に通わせ始めた年齢」を、それ以外については今後「習い事に通わせ始めたいと考える年齢」を調査した。習い事は「音楽系」、「学習系」ならびに「スポーツ・文化系」の3つのグループに分類することとした。

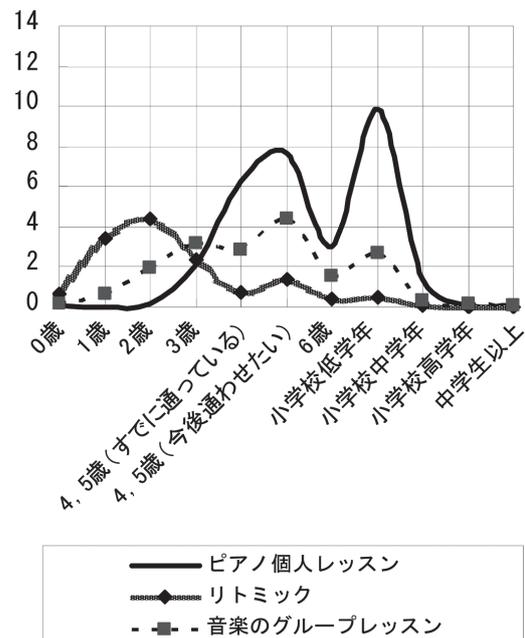
表6 子どもの習い事に関する調査項目

グループ	項目
音楽系	ピアノ個人レッスン
	電子オルガン個人レッスン
	音楽のグルーブレッスン(ヤマハ・カワイ等)
	リトミック
	合唱
	ヴァイオリン
	その他の音楽レッスン
学習系	学習塾
	通信教育(ベネッセ等)
	英語・英会話
	習字
スポーツ・文化系	美術(絵画・造形等)
	体操
	クラシックバレエ
	各種ダンス(ヒップホップ・チアリーディング等)
	スイミング
	武道(剣道・柔道・空手)
	その他スポーツ(サッカー・野球・テニス・ゴルフ等)

表6に挙げた習い事の中で、「過去に習わせたことも、今後習わせる予定もない」とする回答が最も少なかったのは「学習塾」(40.2%)である。そのほか「通信教育(ベネッセ等)」(40.4%),「スイミング」(41.7%),「英語・英会話」(49.0%)が50%以下の回答であった。すなわち、「習字」を除く学習系の習い事とスイミングに関しては、半数以上の保護者がいずれかの年齢で子どもに通わせたいと考えていることがわかった。なお、「過去に習わせたことも、今後習わせる予定もない」とする回答が90%を超えたのは「合唱」(97.7%),「ヴァイオリン」(97.0%),「電子オルガン個人レッスン」(96.9%),「その他の音楽レッスン」(96.2%),「美術(絵画・造形等)」(94.3%),「クラシックバレエ」(92.9%)で、音楽および芸術文化系の習い事には消極的な傾向がみられた。

グループ別にみると、音楽系の習い事の中

では、保護者がいずれかの年齢で子どもに通わせたいと考えていた習い事は「ピアノ個人レッスン」(30.7%),「リトミック」(14.0%),「音楽のグルーブレッスン(ヤマハ・カワイ等)」(18.0%)の順に多かった。これら3つの習い事のそれぞれ「通わせ始めた年齢」および今後「通わせ始めたいと考える年齢」を示したのがグラフ6である。

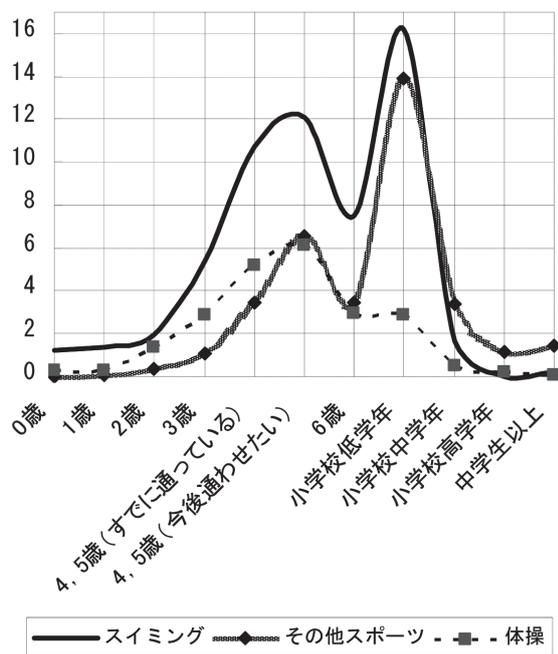


グラフ6 音楽系の習い事に通わせ始めた／通わせ始めたいと考える年齢

「ピアノ個人レッスン」と「音楽のグルーブレッスン(ヤマハ・カワイ等)」は3歳以降「通わせ始めた」または「通わせ始めたい」とする回答が増え、「4, 5歳児」と「小学校低学年」で特に高い割合を示している。これらと対比的に、「リトミック」は1歳児や2歳児で「通わせ始めた」とする回答が多く、それ以降は減少傾向を示した。

スポーツ・文化系の習い事では、特に「スイミング」に通わせたいとする保護者が多いことは先述した。スポーツ・文化系の習い事

で、スイミングに続いて保護者がいずれかの年齢で子どもに通わせたいと考えていたものは「その他スポーツ（サッカー・野球・テニス・ゴルフ等）」（34.8%）、「体操」（22.7%）の順に多かった。これら3つの習い事のそれぞれ「通わせ始めた年齢」および今後「通わせ始めたいと考える年齢」を示したのがグラフ7である。

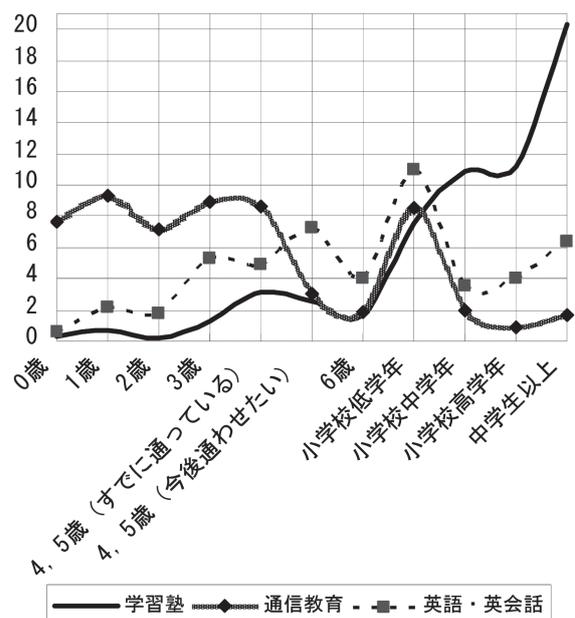


グラフ7 スポーツ系の習い事に通わせ始めた／通わせ始めたいと考える年齢

ここでも「4, 5歳児」と「小学校低学年」に回答が集中していることから、保護者が音楽やスポーツの習い事に通わせ始めたいと考える最初の年齢は「4, 5歳児」あるいは「小学校低学年」であることが多いとわかる。ただし、音楽系の習い事で「リトミック」には3歳児までに高い割合で回答があったように、スポーツ系の習い事の中でも「体操」においては、4, 5歳を機に「通わせ始めたい」とする回答が減少していく。つまり「リトミック」や「体操」といった習い事について、保

護者は小学校以前の時期を中心に通わせたいと考えていることが推察される。また、それ以外の音楽系、またはスポーツ・文化系の習い事においても、「小学校低学年」で「通わせ始めたい」という意識がひとつの頂点に達したのち、「小学校中学年」以降は大幅に減少傾向を示す点は共通していた。

半数以上の保護者が、いずれかの年齢で子どもに通わせたいと考える「学習塾」、「通信教育（ベネッセ等）」および「英語・英会話」の3つの学習系の習い事においては、通わせ始めたいと考える年齢についても音楽系やスポーツ・文化系のグラフとは異なる傾向を示した（グラフ8）。



グラフ8 学習系の習い事に通わせ始めた／通わせ始めたいと考える年齢

「学習塾」への保護者の意識が、他の習い事に対するそれと最も大きく異なる点は、「小学校中学年」以上において「通わせ始めたい」とする回答が大幅に増えることである。「通信教育（ベネッセ等）」においては、乳幼児

期に「通わせ始めた」とする回答が多いことが特徴である。特に0歳児においては「通わせ始めた」とする回答は「通信教育（ベネッセ等）」（7.7%）が最も多く、次いで「スイミング」（1.2%）が多かったが、この2つを除く習い事では、0歳で通わせ始めたとする回答はすべて1%未満であった。

「英語・英会話」についても、「通わせ始めたい」とする回答は「小学校低学年」で最も多いが、「小学校高学年」から再び増加傾向を示した。これは、音楽系やスポーツ・文化系の習い事に関する回答ではみられない傾向であった。すなわち、子どもが成長するにつれて保護者の習い事についての主な関心は、音楽系またはスポーツ・文化系の習い事よりも、学習系の習い事に向かっていくと推察される。

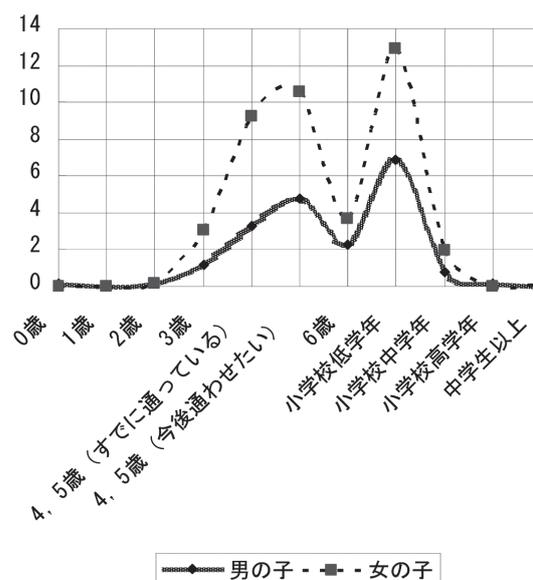
次に表7には、通わせ始めた年齢別に回答の多かった習い事を3つずつ挙げて一覧にして示した。3歳までは「通信教育」や「スイミング」が習い事の主流を占めていたことがわかる。4, 5歳までの時期において、習い事の内容に関して男の子と女の子の回答にほとんど大きな違いはなく、「通信教育（ベネッセ等）」や「リトミック」、「英語・英会話」では性別にかかわらず他の習い事より多くの回答があった。

表7の習い事の中では、「ピアノ個人レッスン」において、特に子どもの性別による違いが表れていた。グラフ9は性別ごとにピアノ個人レッスンに通わせ始めた（通わせ始めたい）年齢を示したものである。「4, 5歳」でピアノ個人レッスンに「通わせ始めた」とする回答が多いのは、特に女の子で「通わせ始めた」とする回答が増えたためであることがわかる（グラフ9）。

すなわち、グラフ6においてピアノ個人レッスンに通わせ始めたいと考える年齢の頂点が「4, 5歳」と「小学校低学年」でみられるのは、特に女の子の保護者の回答に左右されていると言えよう。「音楽のグループレッスン」では、2歳児において多少の差がみられるものの（男の子1.0%、女の子2.9%）、3歳児ではその差が小さくなっており（男の子2.9%、女の子3.5%）、同じ音楽系でも「ピアノ個人レッスン」ほど顕著な違いはなかった。

表7 各年齢において回答の多かった「通わせ始めた」習い事

年齢	1	2	3
0歳	通信教育 7.7%	スイミング 1.2%	リトミック 0.7%
1歳	通信教育 9.3%	リトミック 3.5%	英語・英会話 2.2%
2歳	通信教育 7.2%	リトミック 4.4%	スイミング/音楽の グループレッスン 1.9%
3歳	通信教育 8.9%	スイミング 5.4%	英語・英会話 5.3%
4, 5歳	スイミング 10.7%	通信教育 8.6%	ピアノ個人 レッスン 6.2%



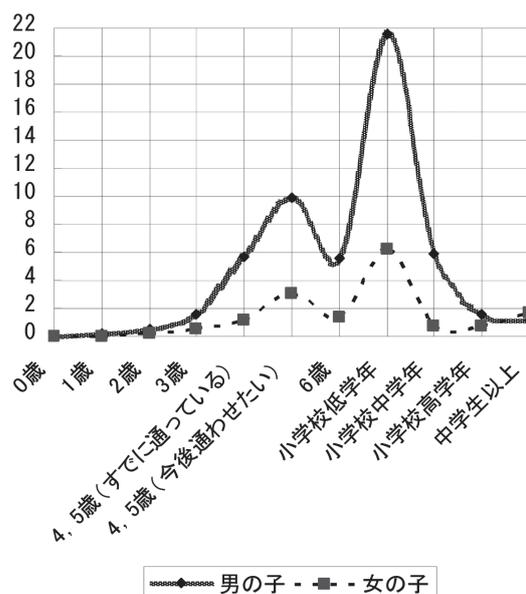
グラフ9 ピアノ個人レッスンに通わせ始めた／通わせ始めたいと考える年齢

同様に表8では、今後通わせ始めたいと考える年齢別に、回答の多かった習い事が3つずつ一覧になっている。

表8 各年齢において回答の多かった「通わせ始めたいと考える」習い事

年齢	1	2	3
4, 5歳	スイミング 12.1%	ピアノ個人 レッスン 7.7%	英語・英会話 7.3%
6歳	スイミング 7.5%	習字 4.6%	英語・英会話 4.0%
小学校 低学年	習字 21.3%	スイミング 16.2%	その他 スポーツ 13.9%
小学校 中学年	学習塾 10.8%	習字 3.9%	英語・英会話 3.6%
小学校 高学年	学習塾 11.2%	英語・英会話 4.0%	武道/その他 スポーツ 1.2%
中学生以上	学習塾 20.3%	英語・英会話 6.3%	通信教育 1.6%

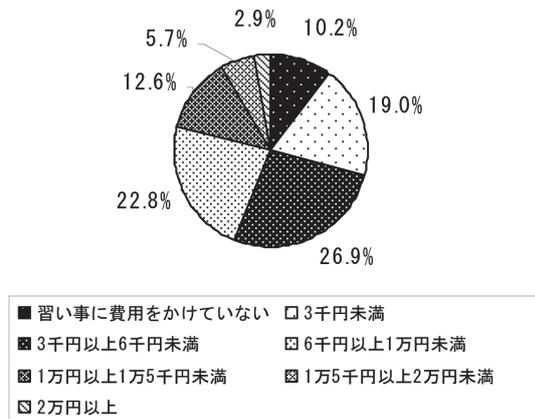
6歳以降は「習字」や「学習塾」を中心に、ほとんど学習系の習い事で占められていた。そうした中、3番目に多かった回答には「その他スポーツ（サッカー・野球・テニス・ゴルフ等）」や「武道（剣道・柔道・空手）」といったスポーツ系の習い事が含まれている。「その他スポーツ（サッカー・野球・テニス・ゴルフ等）」に通わせ始めたいとする保護者の意識には、「ピアノ個人レッスン」よりいっそう子どもの性別による違いが表れていた（グラフ10）。「小学校低学年」で通わせ始めたいとする回答においては、男の子が21.6%であるのに対し、女の子は6.2%だった。「その他スポーツ（サッカー・野球・テニス・ゴルフ等）」について、「過去に習ったことも、今後習わせる予定もない」とする回答も、男の子は46.3%であるのに対し、女の子は84.2%にのぼった。



グラフ10 その他スポーツの習い事に通わせ始めた/通わせ始めたいと考える年齢

このように、音楽系やスポーツ系の習い事の中には、学習系の習い事に比べて子どもの性別による保護者の意識の違いが大きいものがある。一方、それぞれの年齢において特に回答の多い、「通信教育」や「学習塾」、「リトミック」や「スイミング」といった習い事については、性別にかかわらず保護者は子どもに通わせたいと考えていると推察される。「ピアノ個人レッスン」や「その他スポーツ」等が表7や表8に含まれるのは、男の子または女の子のいずれかの回答が増加したときのみである。

なお、現在子どもの習い事に関して1ヶ月に掛かっている費用は、保護者の就業状況や子どもの性別による違いはほとんどなく、「3,000円以上6,000円未満」(26.9%)とする回答が最も多かった（グラフ11）。「習い事に費用をかけていない」という回答が10.2%ある一方で、「20,000円以上」という回答も2.9%あった。



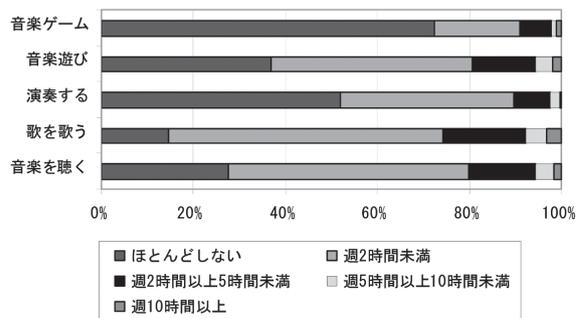
グラフ 11 習い事費用

### 4-3. 音楽活動

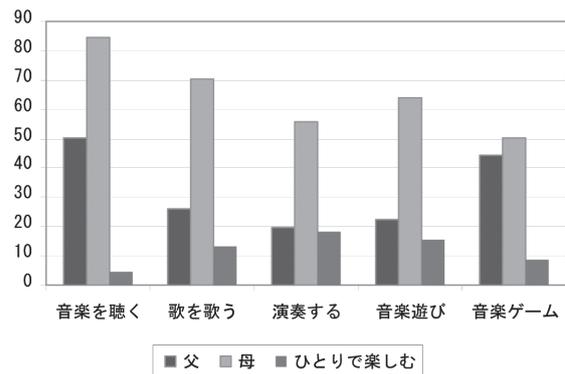
本アンケート調査における音楽活動とは、音楽に関わる諸活動全般を指しており、「音楽を聴く（鑑賞）」、「歌を歌う（歌唱）」、「楽器を演奏する（演奏）」、「音楽遊びをする」<sup>3)</sup>、「音楽ゲームを楽しむ（Wii, PlayStation, パソコン, iPad 等）」<sup>4)</sup>の5種類に分類される。子どもが音楽に親しむ場としては、家庭、幼稚園や保育所のほか、コンサートホール等の公共的な施設等が想定される。

家庭における、これら5種類の音楽活動をおこなう頻度を調査した結果では、「歌を歌う（歌唱）」（85.3%）、「音楽を聴く（鑑賞）」（72.5%）、「音楽遊びをする」（63.2%）の3つについて、50%以上の割合でなんらかの活動の機会があるという回答であった（グラフ 12）。逆に「ほとんどしない」という回答が最も多かったのは「音楽ゲームを楽しむ（Wii, PlayStation, パソコン, iPad 等）」（72.4%）であった。

また、子どもが家庭においてこれらの音楽活動をともにしている相手は、5種類いずれの活動においても主婦を専業としているかどうかにかかわらず「母親」が「父親」を大きく上回った。一方、「ひとりで楽しむ」という回答は「音楽を聴く」は最も少なく4.4%、「楽器を演奏する」が最も高く18.2%だった。（グラフ 13）。



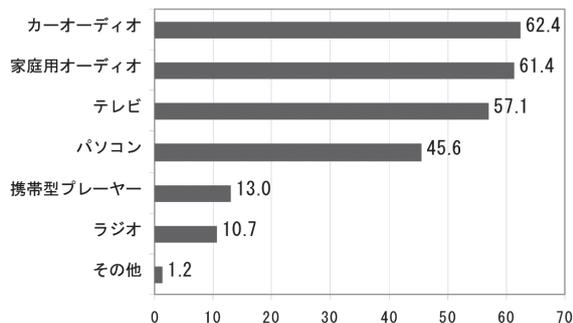
グラフ 12 家庭における音楽活動の時間



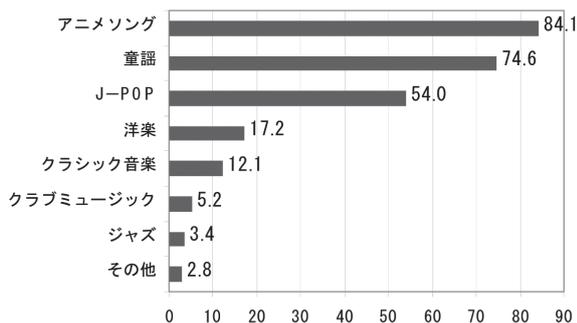
グラフ 13 家庭における音楽活動をともに楽しむ相手

家庭での「音楽を聴く」活動に関して、使用されている機器はさまざまである。子どもが家庭で音楽を聴く（保護者が聴かせる）際に使用する機器としては、「カーオーディオ」（62.4%）が最も回答が多く、「家庭用オーディオ（CD プレーヤー等）」（61.4%）がそれに続いた（グラフ 14）。車での移動中に子どもが音楽を楽しむ機会がもたれていることがわかる。ウォークマンや iPod をはじめとする携帯型オーディオ・プレイヤーも10%以上の回答があり、近年の普及の速さから、今後経年比較を追う中でより使用される機会が増えると予想されよう。

また、子どもがよく聴く音楽ジャンルは「アニメソング」（84.1%）という回答が最も多かった（グラフ 15）<sup>5)</sup>。全体的な傾向として子どもの性別による違いはなかったが、グラフ 15 に挙げられた音楽ジャンルの中での



グラフ 14 家庭での音楽を聴く際の使用機器



グラフ 15 子どもがよく聴く音楽ジャンル

「最もよく聴く音楽ジャンル」に関する調査結果では、「アニメソング」において男の子の方に多くの回答があり（男の子 52.2%、女の子 42.0%）、「童謡」は女の子の回答の方が多かった（男の子 18.7%、女の子 29.9%）。男の子の場合、「最もよく聴く音楽ジャンル」は「アニメソング」（52.2%）、「J-POP」（19.7%）、「童謡」（18.7%）の順に回答が多かった。

家庭における「楽器を演奏する」活動に関して、表 9 に挙げた各楽器を子どもが家庭で楽しんでいるかどうかに関して調査した結果では、「おもちゃ楽器」（55.7%）、「鍵盤ハーモニカ」（18.9%）、そして「キーボード」（17.6%）、「電子ピアノ」（17.1%）および「ピアノ」（13.3%）の鍵盤楽器類に 10% 以上の回答があった。これらの比較的多くの回答があった楽器については、すべて男の子より女の子の方に「家庭で楽しんでいる」とする回

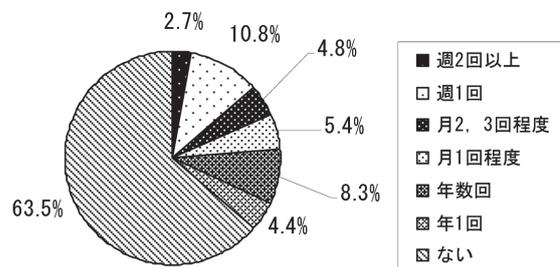
表 9 家庭にある楽器に関する調査項目

1	ピアノ	6	ヴァイオリン
2	電子ピアノ	7	パーカッション (打楽器)
3	電子オルガン	8	和楽器 (琴, 三味線, 太鼓等)
4	キーボード	9	鍵盤ハーモニカ (ピアノカ等)
5	ギター	10	おもちゃ楽器

答が多かった。特に「ピアノ」は、女の子では 17.1% の回答があったが男の子では 10% 以下（9.6%）だった。

「家に楽器がない」とする回答は 19.3% で、ここでも男の子が 26.0%、女の子は 12.5% だった。音楽系の習い事で子どもの性別による傾向の違いがあることは先述の通りだが、家庭での楽器の所有状況もそれと関連していると推察される。

次に、子どもが通っている幼稚園や保育所における、音楽の専門家による音楽活動の時間（音楽指導や音楽鑑賞会等）の有無を示したのがグラフ 16 である。「ない」が最も多く 63.5% を占めた。週 1 回以上という回答も 10% 以上あることから、幼稚園や保育所によってさまざまな取り組みの違いがあるととらえられる。



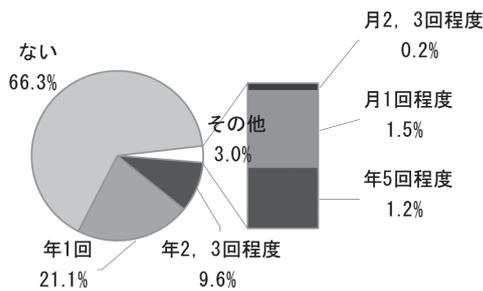
グラフ 16 幼稚園や保育所における、音楽の専門家による音楽活動の時間

では、家庭や幼稚園、保育所等以外の場における子どもの音楽活動の機会はどういう傾向にあるのだろうか。グラフ17は、子どもが家庭および幼稚園や保育所以外のコンサートホール等で音楽鑑賞をする頻度を示したものである。ここでも「ない」(66.3%)が最も多く、月に1回以上という頻度の回答は2%未満であった。海外での調査結果と比較すると、日本以外の国では鑑賞する機会が「ない」という回答はいずれも50%未満であった(グラフ18)。

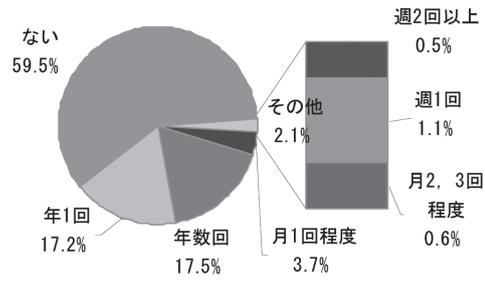
また、子どもが家族等と一緒に音楽イベント等の参加型の催し物に行く頻度についても、「ない」が最も多く59.5%だった(グラ

フ19)。コンサート等での鑑賞機会に関する結果と同様に、海外における調査結果と比較して「ない」という回答は多い傾向にある(グラフ20)。教育制度の違いに加え、コンサートホールや劇場をはじめとする公共文化施設の取り組みにさまざまな違いがあることを考慮すると単純な比較はできないが、海外での調査結果と比較したとき、日本の4, 5歳児の家庭および幼稚園や保育所以外の場所での音楽活動への参加機会は多くはないと考えられる。

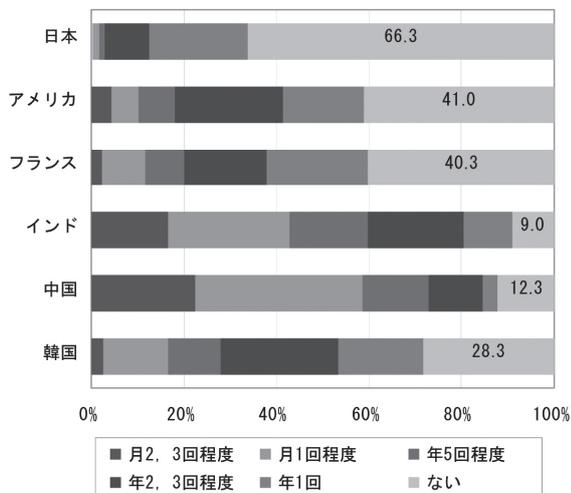
こうした家庭や幼稚園、保育所以外の場で子どもが音楽を鑑賞したりイベントに参加したりする頻度は、保護者の回答と強い関



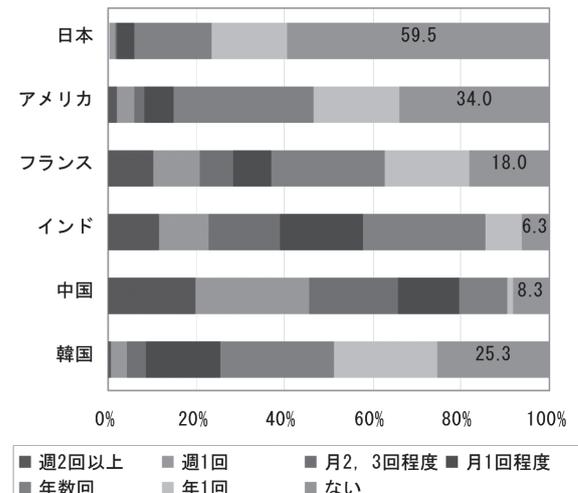
グラフ17 子どもがコンサートホール等で音楽鑑賞をする頻度



グラフ19 子どもが音楽イベント等の参加型の催し物に行く頻度



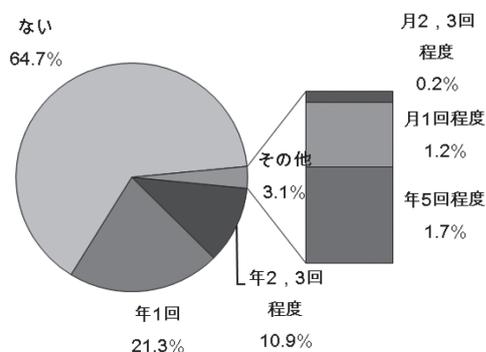
グラフ18 子どもがコンサートホール等で音楽鑑賞をする頻度 (海外)



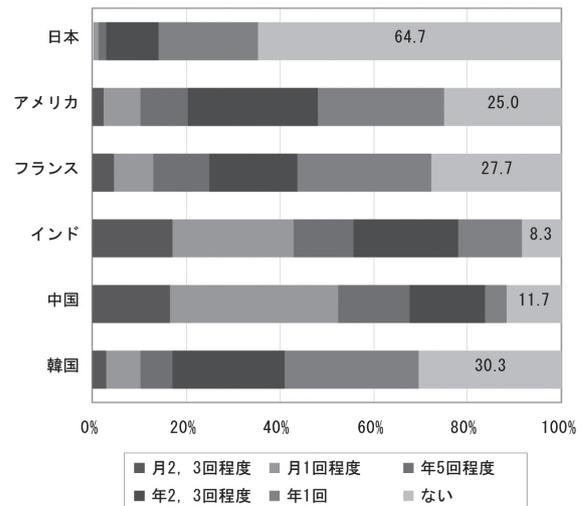
グラフ20 子どもが音楽イベント等の参加型の催し物に行く頻度 (海外)

係性を示すものであった。保護者自身のコンサートホール等における音楽鑑賞の頻度についても、「ない」という回答が最も多く 64.7% だった（グラフ 21）。その割合の高さは、国別にみて「ない」とする回答が日本の次に多かった韓国よりも 30 ポイント以上高かった（グラフ 22）。一方、子どもと保護者の両方において、中国とインドではコンサートでの鑑賞機会や音楽イベントへの参加機会が多い傾向がみられた。

なお、保護者自身が習い事以外に家庭において音楽活動を楽しむ機会の有無は、「音楽を聴く（鑑賞）」（78.2%）のみが 50% 以上の割合で活動の機会があるという回答であった。「ほとんどしない」という回答が最も多かったのは「音楽に合わせてダンスをする」（90.4%）で、「音楽ゲームを楽しむ（Wii, PlayStation, パソコン, iPad 等）」（81.4%）と「楽器を演奏する」（80.9%）も 80% 以上は「ほとんどしない」という回答であった。「歌を歌う」は 62.2% が「ほとんどしない」という回答だったが、特に主夫を専業としない父親においては 74.1% で、専業主婦（専業主夫）の 54.3% や主婦を専業としない母親の 52.7% より多かった。

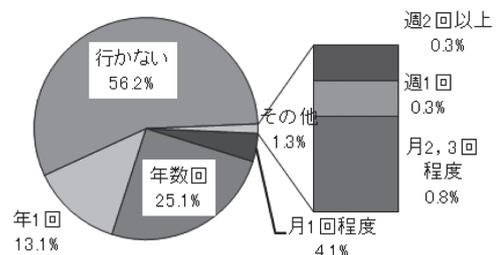


グラフ 21 保護者がコンサートホール等で音楽鑑賞をする頻度



グラフ 22 保護者がコンサートホール等で音楽鑑賞をする頻度（海外）

また、カラオケについても「行かない」（56.2%）とする回答が最も多く、次に「年に数回」（25.1%）とする回答が多かった。



グラフ 23 保護者がカラオケに行く頻度

## 5. まとめと今後の展望

本稿では、4 歳児ならびに 5 歳児の子どもをもつ保護者を対象に、子どもの「生活時間・生活習慣」、「習い事」および「音楽活動」の 3 側面から、その実態や保護者の意識の今日的傾向をみてきた。その結果、4 歳児あるいは 5 歳児の子どもが家庭に帰宅する時間や就寝する時間、子どもにみられる生活習慣等は、国際的にみても多くの共通点を有し、類似す

る傾向を示した。一方で、保護者がある習い事に通わせ始めたいと考える年齢や、音楽活動については、さまざまな考え方や違いがあることも確認されたと言えるだろう。

習い事に関する保護者の意識の主な傾向としては、将来的な展望も含め、音楽系やスポーツ・文化系の習い事に通わせ始めたいと考える時機は「4, 5歳」または「小学校低学年」である場合が多かった。ヤマハ音楽教室の「音楽のグループレッスン」のみに関して言えば、保護者の認識は意識的あるいは無意識的に、4歳（5歳）で幼児科から始まる一連のヤマハ音楽教育システムには適合しているともとらえられる。また、音楽系やスポーツ・文化系の習い事には、小学校低学年を過ぎてしまうと、保護者が「通わせ始めたい」と考える意識が急速に低くなる傾向も確認された。

多くの保護者が子どもに通わせたいと考える習い事は「学習塾」をはじめとする学習系のものに集中しており、それは子どもが成長するにしたがって保護者の主たる関心を形成していた。さらに、多くの保護者が通わせたいと考える習い事には、性別の差があまりみられないことも特徴のひとつであった。対称的に、音楽を含む芸術系の習い事には特に女の子に通わせたいとする保護者の意識が強く、スポーツ系の習い事には男の子の保護者に意識が高かった。

家庭での音楽活動については、鑑賞に使用する機器に多様性がみられるとともに、アニメソングや童謡が親しまれていることがわかった。一方で、子どもがコンサート等で鑑賞する機会や、家族で音楽イベント等に参加する機会は、海外での調査結果と比較して決して多くはない傾向もみられた。

今後、iPodをはじめとする携帯型オーディオ・プレイヤー、WiiやPlayStation Portable等、多種多様なゲーム機の普及によって、家庭における子どもの音楽の楽しみ方も変化していくことが予想される。また、わが国においてもコンサートホールや劇場、NPO法人等による参加型ワークショップや各種芸術系イベントは広まりつつあり、一般的なコンサート以外にも幼稚園や保育所以外の場での、子どもの音楽活動も多岐にわたっていく可能性が高い。そうした中で保護者が「習い事」に対しどのような意識をもち、子どもとともにどのような音楽の楽しみ方を選択していくのか、経年調査により明らかにしていくことを今後の課題としたい。

#### 註

- 1) 現行の『幼稚園教育要領』（平成20年改訂）では、幼稚園の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準としている。なお、厚生労働省による『児童福祉施設最低基準』（第5章 保育所）では保育所における保育時間を1日につき原則8時間としているが、保育所や地方自治体によって、10時間以上保育可能な事例も多い。
- 2) 性別ごとにみると、中国では「22時台」の回答が男の子は10.1%であるのに対し、女の子は20.4%を占めた。韓国では「23時台」の回答が男の子は9.3%だが、女の子では22.7%に達した。
- 3) 本稿では手遊び歌や身体表現を伴うわらべ歌、絵描き歌等を歌って楽しむ活動を指す。
- 4) 本稿ではWii、PlayStation、パソコン、iPad等の電子機器を用いて遊ぶゲームで、音楽を伴うものを指す。

- 5) グラフ 15 における「洋楽」とはロック等のポピュラー音楽, ラテン音楽等を総称するものとして扱う. また「クラブミュージック」にはヒップ・ホップや R&B, ハウス, テクノ, レゲエ等の音楽を含むものとする.